

Course
01

深坂古道 コースマップ

紫式部も通った 万葉の道を歩く

近江・塩津と越前・敦賀を結ぶ古道。古来「深坂越え」と呼ばれ、越前と近江を結ぶ主要道路として賑わいました。万葉の歌人・笠金村や、紫式部が父（藤原為時）に同行して通った道としても知られています。また平清盛が琵琶湖-敦賀間の運河計画を命じたところでもあります。この時に掘り起こした大岩が現在の深坂地蔵と伝えられています。3.8kmと距離は短いながらも「深坂間屋跡」「深坂地蔵」「笠金村歌碑」「紫式部歌碑」など、悠久の歴史に触れることができるのもこの道の魅力です。さらにコースの北には足田舟川の運河遺跡があり当時の物流の様子もうかがうことができます。

約2時間 / 3.8km

近江鶴ヶ丘バス停

▼約10分 0.3km

深坂古道南口

▼約30分 0.9km

深坂地蔵

▼約20分 0.7km

笠金村歌碑

▼約20分 0.6km

紫式部歌碑

▼約20分 0.6km

深坂古道北口

▼約20分 0.7km

JR新定田駅

Access

公共交通
行き：JR北陸線近江塩津駅から、湖国バス「新道野行き」に乗り、約5分で近江鶴ヶ丘バス停下車。帰り：JR北陸線新定田駅から乗車。
自動車利用時の駐車スペース
深坂古道南口の駐車場を利用。

Information

問い合わせ先
[交通]湖国バス長浜営業所
電話 (0749) 62-3201
[コース]奥びわ湖観光協会
電話 (0749)-82-5909



編集 長浜市北部振興局産業振興課

足田舟川
F

JR新定田駅

GOAL

5

5

5

5

5

5

5

5

5

5

5

5

沢を渡る橋が滑りやすいので注意。

カーブを曲がると巨大なホオノキが現れます。5月から6月にかけては花の香りが漂います。

深坂地蔵への参道。ゆるやかな石段が続きます。

知りぬらむ
往來(ゆきき)に
世に経(ふ)る道は
からさきものぞと
「紫式部集」

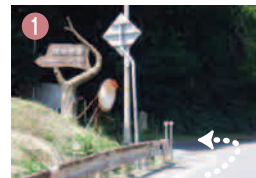
塩津(しおつ)山
打(うち)越え行(ゆ)けば
我が乗(の)る馬(うま)も
まじく家(いへ)恋(こ)ふらしも
「万葉集」

丈夫(ますらお)の
弓上(ゆづえ)振り起(た)せ
射(や)つる矢(や)を
後の(のち)見(み)む人(ひと)は
持(も)つ鎖(くわ)がね
「万葉集」

ホオノキ
D
笠金村歌碑
E
紫式部歌碑



0 500m



1 深坂地蔵の看板が目印。ここを入り集落を抜けると深坂古道がはじまります。



2 深坂古道南口。道の両脇にはもみじが植えられています。



3 深坂古道旧道との合流地点。この先深坂地蔵の参道が続きます。



4 林道との合流地点。歩きやすい道が続きます。



5 深坂古道北口。ここから新定田駅までは舗装された道が続きます。



6 深坂古道旧道入口。ほころが目印。旧道は2013年に整備され再び歩くことが可能になりました。



A B 問屋跡

巨大な石垣は、荷受問屋の跡地です。敦賀から運ばれた荷物がここで別の業者の馬に積み替えられ塩津港まで運ばれました。



C 深坂地蔵

平安末期、平清盛は息子の重盛に琵琶湖-敦賀間の運河開削を命じました。その際に大岩を割ろうとしたところ激しい腹痛に襲われたため工事は中断、大岩を掘り起こすとお地蔵様であったといわれています。このお地蔵様が現在の深坂地蔵と伝えられ、別名「掘りめ地蔵」と呼ばれています。また旅人が道中の安全を祈願して塩をお供えたことから「塩かけ地蔵」の別名もあります。以前はお地蔵様の顔に塩を塗ることもありましたが、痛みが激しく現在は禁止されています。

F 足田舟川の運河遺跡

江戸時代に敦賀湾と琵琶湖の間を水路で結ぶために計画された運河遺跡。当時は川底に松丸太を敷いて舟を滑りやすくしていました。

